

---

# 鉄牢 アイアンゲージ

りょう

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

鉄牢 アイアンゲージ

### 【Nコード】

N7002Y

### 【作者名】

りょう

### 【あらすじ】

鉄牢は5年間暖めた設定です。会話重視のテンポ良い作品になるようにがんばります。

「で、砂漠から戻ってきた商人は、どうなったんだ？」

酒場はMOBの上げる乾杯の掛け声、行き交うNPCたちの鎧と武器の擦れる音

あらゆる音が溢れていた。

モニターの向こうに座る情報屋とのボイスチャットはそんなノイズによって多少聞き辛い。

「俺は情報屋だけ、わかるだろ？」

ヘッドホンの向こうから男の声が響く、少し低くかすれるような、落ち着いた、なんだか諭されているような声だ。

モニターの向こうでは、ダークブラウンの髪を真ん中から分けた人間族の男が喋っていた。

「といっても、もちろんロパクのアニメーション処理だが、相手のモニターにも俺のキャラクターが同じように写っているに違いない。

「いくらなんだ。」

「30,000コロ？」情報屋はニヤリと笑って、トレードウィンドウを展開する。

「30,000コロ！高いんじゃないかね？」だって現金換算30円だぞ。

「ほかの情報屋はもつと安いかもな、しかし、つかまされるネタは鮮度が古い。稼いでるんだろ？」

「それは、あんたに、振舞うためじゃない。10,000コロだ」

「25,000が限界だな、嫌なら他をあたれば良いさ。」

「その情報は何人に売ったんだ？ 15,000」

「独占したいならそれなりに払ってもらうが、、、どうする？」

「20,000以上は出さないよ。それほど重要じゃない。」

「いいね、20,000コルで手を打つよ。これは他言無用。よいかな？」

「了解、トレードだ。」

俺はトレードウインドウを開いて、情報屋のスクロールと20、000コルをトレードした。

「毎度ありw、やつはこの町にたどり着いて死んだ。」

「死んだあ?!」ふざけるな俺の30円そんなことで巻き上げるのか!?

「そう、表向きは、そうなってる。しかし、実際は、町の衛兵によって、ヨルムの町に極秘に移送された。

現在はヨルムの療養施設3号棟にいる。名前はハジだ。」

「何か話したんだろ?新大陸のこと。」

「リザードマンが出たらしいな。これはサービスだ。」

「砂漠にリザードマン?」

「まあ、錯乱した只のうわごとだがね。じゃあそろそろいくわ。

よいトレードだった。」

情報屋はモニターの向こうに消えていく、それに合わせてモニターの画面も、密談モードからフィールドモードに

変更された。今は3D画面で人の行きかう酒場が表示されている。

とりあえず、ヨルムに行ってみるか。

そうそう、忘れていた。俺はリク 剣士だ。

MMORPGは専門誌が発売され、学生、社会人を中心に、男性だけじゃなく女性も巻きこんで市民権を得てきている。

その中であって、ある種異質なMMORPGがある。マジウス社の配信する「アイアンゲージ」 鉄牢だ。

ゲームのシステムは特に特筆するべきものは無く、選べる種族、職業も他のMMORPGに比べ、むしろ劣っている

魔法が回復職しかないMMORPGってどうよ？弓以外の遠距離攻撃手段がないって、ありえねえ。

しかし、毎号専門誌に特集ページがくまれるほどの注目度を誇っているのは、極端なまでの秘密主義と、

リアルトレード公認、AIとは思えないNPCの対応、そして、ネットに潜む一攫千金を前面に押し出した、

企業姿勢の賜物だろう。

アイアンゲージは本来、迷宮探検をメインにすえた探索型MMORPGとしてスタートした。

それは今も変わってはいない。

ただし、迷宮がどこにあるかを探索することから始まるMMOはどうかと思うぞ。

グランドクエストらしいものが存在しない・・・始まりの都市で、本来あるはずのチュートリアルが

「知りたいことは、町の皆に聞くと良いぞ。では、がんばってな。」の一言で終わったときは

どうしようかと途方にくれたが、酒場で知り合ったプレイヤーに有志によるHPを教えてもらったので何とか

続けている。

結果的に酒場で聞いて教えてもらったのでチュートリアルは有効だったが、

これでいいのかマギウス社と本気で頭を抱えた。

HPは当然ワンクリック課金アフェリつきだったが、本当に色々なことが書かれていた。

モニターの見方から、ボイスチャットの方法まで。

それまではただのチャットしか使えなかったし。

ボイスチャット まじらくちん。

NPCとの会話も違和感がないのはびっくりだけど。

俺はボイスチャットを覚えてからギルド登録もできたし、

装備の購入に値切りもできた。NPCと値切り交渉、これってすくなくねえ？

### 3 アイアンゲージ（前書き）

アイアンゲージ開発秘話 MMOマガジンより抜粋

司会「マガウス社の広報に問い合わせても、

何の反応もないアイアンゲージですが、

MMOマガジンの業界のツテを手繰り寄せて

今回は開発部のRさんと、Bさんに

内緒でインタビューに応じていただきました。

本当にありがとうございます。拍手 パチパチパチ

R氏「内緒ですのでww」

B氏「よろしくお願ひします。」

司会「えーとまず始めは、とてもAIとは思えないNPCの会話についてですが、開発上の苦労話お聞かせ願えますか？」

R氏「ああ えーと、それはですね。」

B氏「実はその部分、外注なんですよ、メインフレーム周りとはA I部分は

社長の独断で・・・」

司会「え、そうなんですか、他のMMOに比べても類を見ないほどの完成度

というか、実はバイトさん雇って個別に対応させてるんじゃないかってほど人間臭い対応ですよ。ぜひ開発非話を聞きたかったのですが・・・」

R氏「すみません、アイアンゲージの開発は社長の独断が結構大きいんですよ。」

B氏「そうそう、本来なら大々的に行うはずの新ダンジョン追加イベントだって内緒だから」

R氏「えーと、困ったなあ、それ言っちゃうかB、リリース時期はまだ未定です。」

司会「本当に未定なんですか？Bさん」

B氏「いや、実は・・・」

R氏「未定です。ですが期待しててください。」

司会「近日新ダンジョンリリースですか、楽しみです。そういえば、Bさん、アイアンゲージって何で攻撃魔法が存在しないんですか？」

B氏「ですよ、社長の頭腐ってるんじゃないのかなって思いますよ。」

司会「というところ？」

R氏「補足しますと、弊社のアイアンゲージは社長がプロデュースしており、その世界観、3つのサーバーの特色、職業、システムその他全て、社長のコンセプトをデータ化しています。ただし、社長本人は、MMOについての知識もなく、当然他社のMMOも知りません。それが、ある意味、アイアンゲージの特徴といっても良いのかと思います。」

B氏「売りといえばリアルマネートレードRMTだろ！」

司会「そうですね、実は私が個人的に不思議なのは、マジウス社さん

はアイアンゲージで採算が取れているのですか？ということなのですが・・・」

B氏「まあ社長の肝いりで行ってるやつだからね、採算度外視って感じかな？でもアイアンゲージの配信行ったことで、社の知名度が上がって本業の売り上げは伸びてるし、広告収入もそれなりに入ってるから、いいのではないかな？」

R氏「無料で参加できますが、スキルは購入制ですし、アイテムの販売についても3%の売買手数料をいただいていますので、とんとんぐらいでしょうかね」

司会「ありがとうございます。次回もよろしくお願いします。」



### 3 アイアンゲージ

明かりの消えた室内にピンスポットのように一条の光が差し込んで  
いる。

室内には集まった人々のささやき声が聞こえている。

あちこちで賭けが始まっているようだ。

ここは、アイアンゲージのサーバー ベガにある城塞都市ヨルム  
今年のアイアンゲージの開催会場だ。

アイアンゲージは、マギウス社が配信するRMT推奨のMMORP  
リアルマネートレード  
Gだが、

その特筆すべきは、魔法職をそぎ落としたことと

それにより盗賊をクロースアップしたダンジョン探索ゲームシステ  
ムにある。

プレイヤーがマネーを得るためには、大量の敵を倒して報奨金をも  
らうか、ダンジョンに潜ってその宝をGetするか、または生産ス  
キルを取得してゲーム内で生産したアイテムを販売するか。

大きく分けてそのいずれかになる。

しかし、その全ての行為は情報に左右されるといって良い。

たとえば、どのフィールドにどんな敵がいるのか、その敵の強さ  
は？ドロップアイテムは？

たとえば、ダンジョンはいつたいどこにあるのか？そこで遭遇する  
敵は？どんな罠がある？

たとえば、現在一番売れているアイテムは何なのか？  
全てが、取引材料となる。

それらの情報を管理しているのが盗賊ギルドだ、商人ギルドでも管  
理しているようだが、こちらは有志によるため、情報の正確さに欠  
ける。

話がそれだが、アイアンゲージにおいて、盗賊の優遇さ、重要性は  
比類なきものといつて良い。

そして、4ヶ月に一度開かれる、盗賊の祭典、アイアンゲージがここ、ヨルムで今まさにおこなわれようとしている。

「諸君、幅と奥行き、そして高さ。3つの要素からこの鳥かごは構成されている。

今回挑戦する雛鳥達は、見事にこの鳥かごから逃げることができ  
のか！

さあ、開催しよう、今年のアイアンゲージを！」

司会 というより主催者のヨルム領主の宣言により、いっせいに室内の明かりが灯る。

そこは確かに室内だった。

#### 4 アイアンゲージ (前書き)

実は貨幣制度の説明だったりします。

## 4 アイアンゲージ

ビクエッグ？すり鉢状の底面に広大な鉄のオリとそこから延びる迷宮へ続く道、

天井からはモニター画面のような巨大なパネルが何枚もぶら下がり、それぞれに

巨大な鳥かごを模した鉄の牢屋の中の8人のプレイヤーを写していた。鳥かごからの出口は10本、いずれも3メートル程の高さの壁により仕切られた、一種の迷路になっている。

この競技は、一番早くこの牢獄から、迷路を踏破して脱出できるかを競う、迷路は随所に致死性の罠が仕掛けられており、また全てに道が出口に続いてはいない。

8人のプレイヤーに渡されているのは、松明と、ナイフのみ、後は個人で調達した仕事道具のみだ。

これは、SASUKE？

某人気季節物企画のTV番組のようだ。

「にいちゃん、にいちゃん、掛けねえのか？」

不意に後ろから声がしたと思うと、赤い髪の中年の男がオッズ表を片手にモニターに入ってきた。笑っている。

NPCだ、たぶん。この強引さはプレイヤーじゃない。というかプレイヤーだったら尊敬する。きっと。

「一口銀貨3枚からだ、一番人気はハイドロ万能、1.5倍だ、」

「銀貨3枚？高いな。コロ換算では？」

「にいちゃん、冒険者か、すまねえがコロはやってねえんだ。銀貨のみだ。もってねえのか？」

「持ち合わせがないな。」

「しょうがねえな。ゲージ見物に来て賭けをしねえなんて、何しにきたんだか・・・」

金がないとわかったとたん男の愛想笑いが消えた。と思ったらブツブツいいながら画面から遠ざかっていった。

通貨は実は持ってたんだよな。

アイアンゲージの世界はお金についてややこしい設定がされている。NPC間で流通する貨幣と、われわれプレイヤー、NPCが言うところの冒険者固有の通貨「コロ」がある。

商人ギルドで「コロ」は貨幣と両替してもらえるが、その際マジウス社に手数料として両替金額の1%を支払うことになる。

また、RMTはコロからのみ変更可能だが、アイアンゲージ内では一般には貨幣が主流で、コロでのやり取りはあまりできない。たとえるならドルで日本の買い物難しいのと同じ感じ。

ついでに円との比較をすると、

1,000コロ=1円

小銅貨1枚0.02円

銅貨1枚0.1円

小銀貨1枚2円

銀貨1枚100円

小金貨1枚2,000円

金貨1枚10,000円

晶貨1枚200,000円

となる。

誠にややこしい。

## 5 アイアンゲージ（前書き）

細々と書いてます。

誤字 脱字はご指摘いただけるとうれしいです。

## 5 アイアンゲージ

何で、ゲーム内通貨が2種類設定されているのか？

こんなゲーム聞いたことがない。

RMTの際運営側が課金するから、とか ゲームの世界観だとか、色々言われているが、もちろん公式の説明はなされていない。

マジウス社の公式HPにも、RMTについての説明はされている。

リクが理解していることは、換金するのはコロ、ゲーム内でアイテムとか購入するのは

硬貨、(円とかドルといった名称がなく、ただ金貨、銀貨と呼ばれているのはどうしたものか?)

ということだけだ。

一人運営のあり方について考えていると、不意にモニターの中に見知った鎧が映り込む。

と、その鎧を着た男がこちらに向かって歩いてくる。

「リクじゃん、珍しいねベガにいるなんて、ゲージ観戦かい？」

聞きなれた、ちょっと低めの男の声が聞こえた。

鎧の男は、深紅のレザーアーマに深紅のラウンドシールドを左手につけており、

頭部を保護するヘルムはつけていない。

ラウンドシールドはシールドとして機能するのかというくらい小さく、

直径がアバターの肘から指先までしかない。

下半身も深紅の脛あてをつけているが、特徴的なラウンドシールドのせいで、印象は薄い

「ツルカメさん、久しぶりです。こんなところで会うなんて奇遇ですね。」

「ああ、弓の手入れに来たんだよ、ついでにゲージ見物ってね。」

「あれ？ツルカメさんの弓ってベガで買ったんですか？」

「ちがうちがう、あれ特殊だから、研ぎ師がここしか居ないんだわ。」

「良い職人さんなら紹介してくださいよ。プレイヤーですか？」

「いいけど、親方気質っていうか、もろ職人だよ。ちなみにNPC  
だけど．．．親方だ。」

「それは、是非お近づきになりたいですね。腕の良い職人さんは貴重  
ですから。」

ツルカメさん．．．名前が残念だけど．．．は、弓の先が剣になっ  
ている特殊な武器を使っている。

モンスターのドロップアイテムだったらしく、市場には売られてい  
ないらしい。

以前商人ギルドで価値を調べてもらったらしいが、いくら値がつ  
いたのか教えてくれなかった。

「弓の研ぎを頼んだら、1日草刈を手伝わされたよ。」

「草刈ですか？それってどうやるんですか？」

「草刈スキルって言うのを親方にもらって、フィールド画面で、赤  
いドットをひたすらアタックする。んで、それを延々3時間．．  
修行だったよ。」

「お疲れ様でした。もう弓のメンテは終わっただんですか？」

「いや、4日ほどかかるって言われた。だから、ここでゲージ見学。」

「4日って言う結構かかりますね。16時間？」

「そそ、だから久ぶりにサブウエポンのショートソードじゃが丸君  
の出番なんだなw」

「じゃが丸君ですか、そうですか、」

「うん、ところで、リクはアルタイルに籠もってるかと思っただ  
けど、ゲージ目当てでもないでしょ？」

「今までゲージって見たことなかったんで、見物です。」



はい、ごまかしました。ハジの情報は20円も出して買ったんですから、いえません。

「じゃあ、一緒に見ようか？稼げるチャンスだし。」

じつは、すでに療養施設には足を運んできた。が門前払い、そんな男は居ない、来ても居ない

の一点張りで、施設の門番に中にもいれてもらえず・・・

あの情報屋、覚えてるよ ゴルア

とりあえず、明日出直そうかと思っているので、朝待ち状態です。お疲れ様です。

「いいですね、ここの楽しみ方ってどうするんですか？」

「んーはつきり言って賭け事かな？ ほら、アイアンゲージってRMTを公然と謳っているからゲーム内でカジノ施設とかってできないから、運営側としては、プレイヤー参加型のイベントを行っているってスタンスで、後はプレイヤーの自己責任って感じ、NPCは世界観にあわせた演出ね。」

「何でもありですね、マギウス社。」

「おかげで、こっちも稼げるってわけだねw、リクは硬貨はある？」

「はい、持ってますけど。」

「じゃあ、ちよつとだけ運試しでしょうか。」

モニターの中のツルカメさんの顔は変わっていないが、なんだかニツコリされたような気がした。

「今回の参加者は、8人中6人が前回も出場してるんだ、新参者2人の内1人は前々回の参加者、まったくの新人は1人ってことだ。」

「...」

ゲージはマギウス社が、職業ごとに企画するイベントだ、今回の盗賊用イベントは、迷宮を模した畏満載の通路をプレイヤーが走破できるか、出来たとしたら誰が一番かを競う。

剣士用のゲージは、コロシウム風に戦闘だし、弓士用も射的大会だ、面白いのは商人用のキャラバンと呼ばれる4都市を結んで行われる貿易レースくらいかな

## 6 アイアンゲージ（前書き）

アイアンゲージのゲーム画面は、プレイヤーアバターを正面に映す俯瞰画面とアバター視線での対話画面の2種類があります。

## 6 アイアンゲージ

「リク、聞いてる？」

「あ、すみません、なんですか？」

「誰に賭ける？」

「えーと、誰がお勧めですか？」

「聞いてなかったでしょう。お勧めは、前回参加者のマイツと、かなもん この二人は前回もゲージを脱出している。」

あと、今回の新人 チャーリー君 前々回の参加者レオナルドは実力はあるが、難しいだろうな。」

「そうですか、だったら マイツとチャーリー君をそれぞれ銀貨3枚づつ買います。」

「じゃあ あそこのNPCの所で買おうか。」

テーブルを出して、その上にオツズ表を飾った中年男から、銀貨6枚分の掛札を買って、

リクとツルカメさんはすり鉢状の縁に当たるゲージから最も遠い一番上の席に腰掛けた。

ここからだと、参加プレイヤーは子供くらいの大きさだ。モニターの解像度が低いため、

プレイヤーが何をしているか迄はわからない。

オツズはマイツが6倍、チャーリー君が4倍だった。

勝った場合の払い戻しは、商人ギルドで行われるらしい。

ツルカメさんは、かなもん とチャーリー君を銀貨5枚づつ買っていた。ちなみに かなもん のオツズは2.5倍だった。

「ツルカメさんは職業何なんですか？」

「ああ 僕は弓士だよ。」

「弓士って接近戦出来るんですか？」

「剣士ほど接近戦に特化してはいないけどね、スキルとして剣技と楯を伸ばしているから、それなりには戦えるよ。」

あ、それより、そろそろ始まりそうだよ。」

あわてて中央上部に浮かんでいるモニターをクリックする。

モニター画面が上下に分割され、上部にモニターが大写しになる。

モニターは参加プレイヤーと等しく用意されており、参加プレイヤーを追いかけるように表示される。

今大写しになっているのは、マイツの方だ。

黒いレーザーアーマをつけ、直立不動の姿勢で立っている男が、マイツのようだ。

ゲーム内時間で21時を過ぎた瞬間、主催者のヨルム領主の顔がモニターに大写しになる。

「諸君、これよりゲージを始める。」

激かな宣言と同時に、モニター内のマイツが走り出した。

マイツの右側に青い鎧をつけたプレイヤーが映る、とそのプレイヤーがいきなりマイツに切り掛った。

！！

「PK有りなんですか！」

「ここはベガだからね。限定空間でのPKは認められているよ。」

マジウス社のアイアンゲージはベガ、アルタイル、シリウスの3つのサーバーで運営されている。

それぞれ、始まりの町ユースタウンは共通だがそれ以外は地形も、サーバーの特徴も異なっている。

それはPKの有無だ、アルタイルはPK不可、シリウスはPK可能、そしてベガは、限定空間でのPKは可能 となっている。

限定空間というのは、町の外、または町の中でも決められた場所を指し、PK可能エリアに入るとモニター上部に赤いラインが現れる。アイアンゲージの中で死亡した場合、所持金の3割、所持アイテムのいくつかを ランダムにrootする。

NPCに対する攻撃は可能だが、NPCは死亡した場合でも何もrootせず、ただ消えるだけだ。

そして衛兵が現れ、プレイヤーを攻撃する。

衛兵は死ぬことがなく、プレイヤーは逃げ切るか、死亡するしか道はない。

死亡した場合は当然所持金の3割、所持アイテムのいくつかをラウンドにrootする。

そのため、NPCの殺戮はメリットがない。

PKを行ったり、NPCを殺した場合、レッドプレイヤーとみなされる。

これは、名前の色が赤く表示されることで判別される。

おそらく、ゲージの中はPK可能空間なのだろう。

そして我らがマイツは、青い鎧の男の短剣を避け、右から二つ目の入り口に転がり込んだ。

とたんに入り口が下からせり上がった鉄格子によって阻まれ青い鎧の男は別の入り口を選ばなくてはいけなくなった。

死んじゃえ、青い鎧。卑怯なやつだ。名前はベルクとなっていた。

別のモニターをクリックすると、そこにはデッドの赤文字と死亡したプレイヤー ラクロアの死体が映っていた。

そしてラクロア越しに3人のプレイヤーが剣を握って争っている。

3人がかりでラクロアを殺して、次の犠牲者を決めているらしい。

3人の名前は赤文字に変わっている。

白いのが、吸血サンド、茶色の小柄なのがグリフ伯、多分ドワーフ族だろう。最後の一人が かなもん だった。

しかし、吸血サンドって魔物っぽ。センスないなあ。

「いきなりの奇襲を受けラクロアが死亡しました。今回のアイアンゲージは初めから波乱含みだあ」

会場アナウンス？実況中継？主催者の声が響く。

「一方、回廊に飛び込んだのは現在4人、人気no.1 ベルク  
ダークホースのチャーリー君、

他二人もゴールに向かって爆進中だあ、出遅れた3人はまだゲージの中だ、そろそろ回廊の入り口も閉まるぞ。このままだと失格だあ」  
時間が来ると回廊の入り口が閉まるらしい。てか領主ウザい。

アナウンスを聞き、争っていた3人はいっせいに回廊の入り口へと散っていった。

## 6 アイアンゲージ（後書き）

アイアンゲージ参加者について

ラクロア 死亡 実は巨人族でした。

グリフ伯 ドワーフ族

吸血サンド 白いやつです

かなもん 今回の人気NO・2

マイツ 黒いやつです。

レオナルド 前回は予選で死亡

チャーリー君 期待の新人

ベルク 今回人気NO・1 青いやつです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7002y/>

---

鉄牢 アイアンゲージ

2011年11月27日08時45分発行